経営比較分析表（令和3年度決算）

熊本県　山鹿市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	44.57	60.75	2,505	

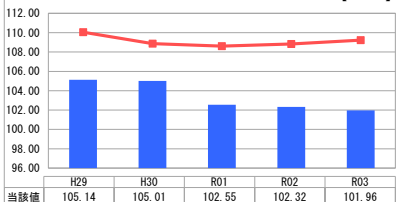
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
50,051	299.69	167.01
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
30,262	37.00	817.89

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

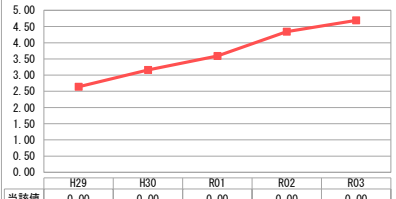
【111.39】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	105.14	105.01	102.55	102.32	101.96
平均値	110.05	108.87	108.61	108.83	109.23

②累積欠損金比率(%)

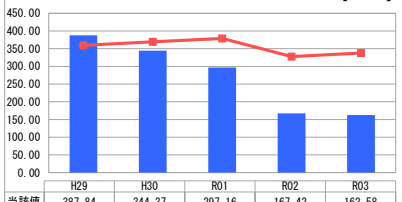
【1.30】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	2.64	3.16	3.59	4.34	4.69

③流動比率(%)

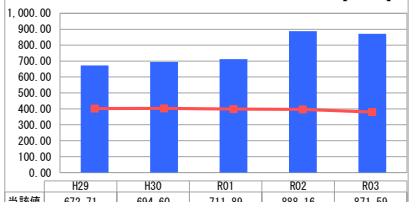
【261.51】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	387.84	344.37	297.16	167.42	162.58
平均値	359.47	369.69	379.08	327.77	338.02

④企業債残高対給水収益比率(%)

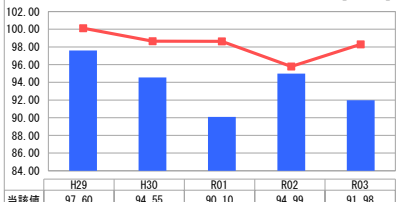
【265.16】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	672.71	694.60	711.89	888.16	871.59
平均値	401.79	402.99	398.98	397.10	379.91

⑤料金回収率(%)

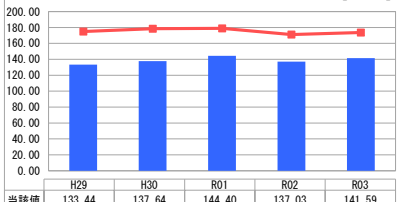
【102.35】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	97.60	94.55	90.10	94.99	91.98
平均値	100.12	98.66	98.64	95.79	98.30

⑥給水原価(円)

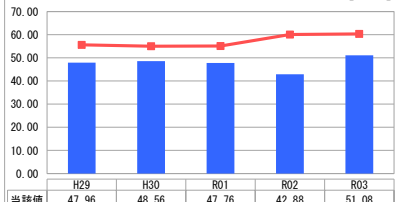
【167.74】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	133.44	137.64	144.40	137.03	141.59
平均値	174.97	178.59	178.92	171.13	173.70

⑦施設利用率(%)

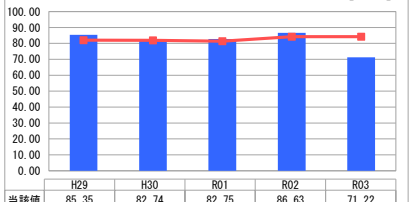
【60.29】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	47.96	48.56	47.76	42.88	51.08
平均値	55.63	55.03	55.14	60.12	60.34

⑧有収率(%)

【90.12】

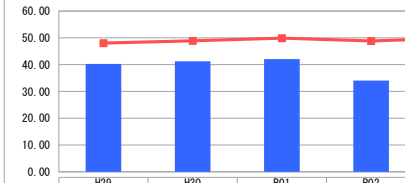


	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	85.35	82.74	82.75	86.63	71.22
平均値	82.04	81.90	81.39	84.24	84.19

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

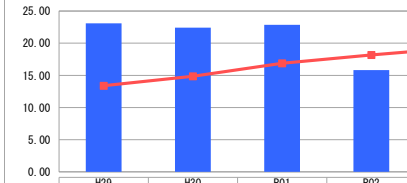
【50.88】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	40.24	41.26	42.04	34.02	36.24
平均値	48.05	48.87	49.92	48.83	49.96

②管路経年化率(%)

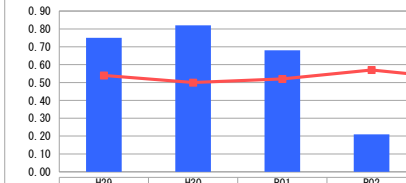
【22.30】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	23.09	22.41	22.86	15.81	20.69
平均値	13.39	14.85	16.88	18.18	19.32

③管路更新率(%)

【0.66】



	H29	H30	R01	R02	R03
当該値	0.75	0.82	0.68	0.21	0.44
平均値	0.54	0.50	0.52	0.57	0.52

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%以上を維持しているが、類似団体と比較すると低い水準である。今後も更なる経営の健全化に努める。

②累積欠損金は発生していない。

令和2年度簡易水道との統合により③流動比率が低下し、④企業債残高対給水収益比率が高い水準にある。今後は、料金水準の適正化による財源確保や企業債借入を長期的に検討し改善を図る。

⑤料金回収率は100%を下回っており低い水準にある。⑥給水原価は類似団体より低い水準にある。料金水準の適正化と維持管理費等のより一層の削減を図る必要がある。

⑦施設利用率は、将来の水需要の減少を考慮した施設の規模適正化による効率的な施設整備を行う。

⑧有収率は、漏水及び流量計の更新により配水量が増加したため低下した。今後も、計画的な老朽管更新や漏水防止対策を進め有収率の向上を図る。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、減価償却が進んでいるが、施設等の更新については、将来の水需要の減少を踏まえた施設等のダウンサイジング化を図りつつ、優先度の高い施設等から更新を進めていく。

②管路経年化率は、類似団体を上回っている。今後も耐用年数を経過した優先度の高い管路から更新を進める。

③管路更新率は、類似団体とほぼ同水準である。今後も優先度の高い管路から計画的に更新を進める。

全体総括

経営状況は、経常収支比率は健全な水準を維持しているが、料金回収率が100%を下回っている。

今後は、人口減少による給水収益の減少や令和2年7月豪雨により被災した施設の整備に係る費用が増加することが見込まれる。

このような状況を踏まえ、先に策定した水道ビジョン、経営戦略の進捗を管理し、今後、計画的な事業の規模適正化、集約化、料金水準の適正化等により持続可能な経営に努める。